



1

研究先進校 情報提供 ～国立教育政策研究所 教育課程研究指定校事業～

- 過日、文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センターによる「教育課程研究指定事業」の研究協議会が実施されました。各校とも新学習指導要領に基づく教育活動の全面実施に向けて、先進的かつ実践的な研究を推進しています。
- 研究協議会の資料には、小学校外国語活動及び中学校外国語の研究事例が整理されていましたので、国内の研究先進校の情報提供として、参考にしてください。
- 1つ目の小学校の事例は、現在小学校5～6年生を中心に各校で実践されている「Small Talk」についての研究となっています。「子どもの発話を促す7の工夫」は、すぐに取り入れることができます。
- 2つ目の中学校の事例は、領域統合型言語活動、「sharingの時間」及び「パフォーマンステスト」についての研究となっています。全国学力・学習状況調査及びその予備調査を活用し、授業改善を図っています。

※ 以下、全て研究協議会資料より抜粋又は一部改

京都府 京都市立 朱雀第二 小学校

● 研究主題

自他を大切にし、進んで互いの思いや考えを伝え合おうとする子の育成

● 研究のキーワード

対話・即興性の基礎・発話・思考・既習語句や表現・**Small Talk**・教員の英語力の向上

● 研究結果のポイント

- **Small Talkノート**を活用し、Small Talkを計画的に授業に取り入れ、実施後に自己省察を行って授業改善につなげるというプロセスを繰り返した結果、指導者の英語力が向上した。
- 対話を続けることをねらいとした短時間学習を設定した結果、子どもの対話を続けようとする意欲や英語力が育ってきた。

Small Talk ノート 教員が一人一冊ずつ持っているノートに、Small Talk の台本や授業の振り返りを書き、ALT や研究主任が正しい英語に直したり、コメントを書いたりしてフィードバックをする。教員が子どもの反応も含め、Small Talk の実践を自己省察し、授業改善につなげられるようにした。

● その他

○ 子どもの発話を促す7の工夫

- ① 言おうとしている子どもに言葉をかけて励ます
- ② 子どもが言ったことを認め繰り返す
- ③ 子どもが言ったことに相づちや反応を返し、安心感を与える
- ④ 子どもがつまった時に、ヒントを出す
- ⑤ 子どもに様々質問をする
- ⑥ 子どもの言った日本語表現を英語表現に替えて言う
- ⑦ 子どもの間違いを、さりげなく修正する

○ 職朝ブラッシュアップ研修

外国語活動主任、ALT、環境部担当教員が中心となり、教員が外国の文化について学んだり、授業でも使える簡単な表現を身に付けたりすることをねらい、実施した（週1回5分程度）。この研修においても**Small Talkノート**に記録を残している。

神奈川県 相模原市立 相模台 中学校

● 研究主題

互いの考えや気持ちを即興で伝え合う生徒の育成

～複数の領域を統合させた言語活動に繰り返し取り組む単元指導の工夫を通して～

● 研究のキーワード

コミュニケーションを行う目的・場面・状況の設定の工夫・インタラクションを通した即興で伝え合う力の工夫・**Sharingの時間**・領域統合型の言語活動・**パフォーマンステスト**

● 研究結果のポイント

- **Sharingの時間**における指導及び複数の領域を統合した言語活動により、表現内容が豊かになり、正確さが向上した。
- 年間を通して、継続的に「話すこと [やり取り]」の活動を行ったことで即興性が養われた。
- **パフォーマンステスト**において生徒の話す力の伸長が見られた。

Sharingの時間

- 「話すこと [やり取り]」、「書くこと」の表現力、正確性を向上させるため、3つの視点（「単語⇒文」、「語順」、「パラフレーズ」）で言語活動後に指導を行った。指導を行う際、教師が一方向的に教えるのではなく、まず、生徒に考えさせ（学習調整）、既習事項を想起させる工夫を行った。
- 上記の視点を板書で共有し、スローラーナーへの手立てや、その後のライティング活動への手助けとなる工夫を行った。
- 良かったペアや生徒のやり取りを全体で共有し、表現力を向上させる工夫を行った。その際、言語面の指導だけではなく、内容面についてもフィードバックを行った。具体的には、内容面への反応や、その内容について全体で共有し、話題とした。

● その他

○ パフォーマンステスト

- ・ 毎学期全学年でALTと1対1でパフォーマンステストを実施した。
- ・ ルーブリックを用いて、生徒が目指すべき姿を事前指導の中で生徒と共有した。
- ・ やり取りのパフォーマンステストの中に、目的・場面・状況を設定し、生徒が思考・判断・表現を図る工夫を行った。

2 子どもたちの間違いを宝に変えるのが我々の役割 ～正確性と流暢性の狭間で～

○ 上記、相模原市立相模台中学校の課題の1つ

正確さを求めるあまり、それがプレッシャーとなり、生徒の話そうとする意欲を阻害する恐れがあり、言語面と内容面のバランスを考える必要がある。（同、抜粋）

○ 英語の学びに必要な「**Risk-taking Attitude**」

英語の学びとは、自らの英語の誤りに気づき、修正し、相手に自分の考えや気持ちなどが伝わったことを実感しながら、成長を自覚し、自信を感受するものではないでしょうか。だからこそ、失敗を恐れず、英語の誤りを成長の宝とする、そんな授業づくりをしたいものです。

失敗を恐れて
安全な世界で
ひっそりと...

VS

間違い自体が
発見そのもの
英語学習の宝

Risk-taking Attitude（リスクに立ち向かう姿勢）が必要

- Making mistakes is a passport to a new discovery.
- 間違えた数は、それだけチャレンジしたことの証
- 間違いは宝物。Love your mistakes!
- それをサポートするのは、指導者としての大切な役割
- 子どもたちを大きく育てたいからこそ、たくさんの間違いを経験させたい！

小学校英語セミナーin福岡 小学校英語の評価 何をどう見取るか ―現状のポイントを今後の動き―
敬愛大学国際学部国際学科 向後表明（ともに英語を学ぶ会、2020.01.26）一部改